

哲学カフェ@名古屋 2014年11月22日(土) in カフェティグレ伏見店

テーマ「環境は誰のものか？」

進行役：奥田太郎

■参照点としての7つの問い

- ① 環境は「モノ」か。「モノ」とは何か？可視化できるもの？形があるもの？場所を占有するもの？素材のようなもの？なのか？
- ② 《ご案内》では、環境は恵みを与えてくれるもの、有益な資源という部分に焦点をあてているが、それは何故か？東日本大震災の地震・津波、御嶽山の噴火など災いをもたらし、恐竜をはじめ生物種を絶滅させる面を看過するのは何故か。重金属類あるいは「紫外線」など「環境」には有害なものも溢れている。やはりなぜ看過して、環境を有益な資源として利用という側面に前のめりになるのか？無害無益な環境の余地はないのか？
- ③ なぜ「所有」を真っ先に考えがちなのだろうか？なぜ「利用」「使用」「影響」を後回しにするか、付随するものとして考えるのだろうか？
- ④ 環境を所有する、利用する「権利」ばかり考えがちなのは何故か？環境を利用することへの「責任」、所有することの「責任」、所有者・利用者の「義務」が後回しなのは何故か？
- ⑤ 「環境は誰のものか」という問いの前提として、さらに「所有者が自由に利用（処理）してよい」という前提があるが、その前提がおかしいのではないか？
- ⑥ 「環境は〇〇のモノである」という主張や意見が対立し一致しない・調整できない場合、どうするのか？多様な意見や価値観がぶつかりあって、それぞれが正しいことを主張して平行線を辿るなら、環境問題はどうやって解決すればよいのか？
- ⑦ ⑥と同様に「環境は誰のものか」という問いに正解が出せない場合、地球環境問題であれ、生物多様性の保持であれ解決するための方法や智慧はないのか？

*哲学カフェ@名古屋ウェブサイト フォーラムでの山方氏の書き込みを若干改変